わが村は美しく

函館市編

第十一回 奨励賞 ハコダテフィッシャーマンズ

タッチプールは、魚を手で触りながら学ぶことができると大人気。

地場産マイワシを使った「ハコダテアンチョビ」、未利用魚を活用した焼き魚などオリジナル商品も。

お話をしてくれた人

ハコダテフィッシャーマンズ
熊木祥哲 さん

Vol. 224

漁師の仕事を見える化。良質豊富な海産物で漁師のカッコよさを伝えるぞ！

海産のまち函館でも漁師の数は減っている。

北海道で行きたい場所の筆頭に上がる函館市。観光資源に加え、豊富な海産物が人々を魅了している。しかしこの町でも漁業者不足が深刻化しているようだ。

そんななか、若手漁師四人で立ち上げた「ハコダテフィッシャーマンズ」が注目を集めている。

設立は、二〇二〇年。代表の熊木祥哲さんは設立経緯をこう話す。

「魚離れが進んでいる中、息子に『パパが獲った魚はどこで売っているの?』と聞かれて答えることができませんでした。地元の海産物のこと、それを獲った漁師のこと、漁業の現状などをもっと市民に知ってもらいたい思いで立ち上げました」

熊木さんは日頃から感じていたことを函館市内の複合施設「シエスタハコダテ」の投書箱に匿名で投稿。『農産物はあるけど、漁師のマルシェがないので、力を貸してほしい』と書き入れた。それが統括責任者の岡本啓吾さんの目にとまり、メンバーが獲った魚を持ち寄り二〇二一年二月、「シエスタハコダテ」で「フィッシャーマンズマルシェ」が実現した。「自分が獲った魚に初めて自分で値段を付けて、直接売ることができた」とうれしそうに語った。

このマルシェを大きく後押ししたのが、福田海産(株)代表取締役の福田久美子さん。「コロナ禍で、海産物の加工もままならない時期で、若い漁師がマルシェを開催すると岡本さんから聞き、応援せずにはいられなかった。開店前から行列ができ、需要はあると確信した」と話す。

第11回コンクール

奨励賞

参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

函館市へは、JR函館本線、函館駅で下車。函館駅構内、周辺でも海産物が多く販売されている。駅から車で10分ほどの福田海産では、「ハコダテアンチョビ」のほか、未利用魚の加工品、「函館サメフライバーガー」などを販売している。詳しい情報は、熊木さんのInstagramやXを参考にしてください。

お問い合わせ／福田海産(株) ☎0138・30・8833

文・写真＝船本弘美　写真協力＝1 3 6 7 8 ハコダテフィッシャーマンズ　※取材日は2024年9月24日です。

左から福田社長、熊木さん、齊藤さん。「函館サメフライバーガー」は福田海産で販売している。

季節によって漁場や獲れる魚は変わるが、熊木さんらの熱い想いは変わることがない。

「シエスタハコダテ」イベント会場でブースを展開し、市民に地元の魚をアピール。

魚への関心を高めるため、小さな子どもに目の前でさばき方を見せるのも魚育の一つ。

魚育活動の中心となりPRする齊藤さんは得意のオリジナルソングも披露。

福田海産の店内では、それぞれのアイデアを生かしたオリジナル商品が多彩に並ぶ。

熊木さんらが次に手がけたのは、町内会と連動した「福マルシェ」。買い物が困難な高齢者に新鮮な魚を届けたいと、農業者などとも連携し、町内会単位でマルシェを開催。これが、地域住民に受け入れられ、続々と参加したいと申し出る町内会が出るほどの盛況ぶりだった。

その後も、団体・企業等と連携は続く。新幹線で大宮駅まで魚を運んで「函館物産展」や水産会社とコラボしてマルシェなどにも参加した。

業種を超えたつながりが活動の幅を拡大化。

福田海産との連携が、次の展開へ加速。型が小さい、知名度が低く、流通ルートに乗らない未利用魚の商品化も実現した。

ここでもう一人、キーマンが登場する。おさかな専門シンガーソングライターの齊藤いゆさんだ。マイワシ消費の応援ソング「わっしょいわし」を作曲し歌唱。

マイワシは市場に出しても、価格が安すぎて廃棄することが多いが、この価値を高めようとプロジェクトチームを結成し、地場産の「ハコダテアンチョビ」を開発。製造が追いつかないほどのヒット商品になった。

「函館は魚の街なのに水族館がない」と話す齊藤さんは、食育ならぬ魚育の必要性を説き、幼稚園、小中学校で未利用魚のホシザメやツブラノザメをタッチプールに放ち、五感を刺激する授業も展開している。体験後はサメをフライにして食べる。埋もれている魚の認知度を高めたいと齊藤さん。出前授業などにも応じて、子どもたちと漁業との接点を増やしていきたいとも話す。

〝仕組み〟を作って漁業を盛り上げる達人たち。海産物の宝庫・北海道。それを支える漁師の数も減っている。「漁師みずからが現状を発信し、周りを巻き込むことで、マチを盛り上げ、産業全体を元気にすることができると信じている」と熊木さんは強調する。 J

「わが村は美しく―北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311（内線5685）